

第三回館山市議定会  
議録（第一号）



### 第三回館山市議定会定例会會議錄（第一号）目次

日	時	二
場	所	二
出席議員		二
欠席議員		三
出席説明員		三
出席事務局職員		四
議事日程		四
開會		五
議案の配付		五
議長の報告		五
會議錄署名議員の指名		五
会期の決定		五
提案理由の説明		六
議案の上程（認定第一号、認定第七号、報告第四号、議案第六十八号、議案第七十二号）		八
議案の内容説明		八
延會		二七
本日の會議に付した事件		二七



# 第三回館山市議定会定例会會議錄（第一号）

## 昭和四十六年九月招集

一、昭和四十六年九月十七日（金曜日）午前十時

一、館山市議定会本會議場

一、出席議員 二十八名

一	番	吉	田	勇	治	郎	一	番	山	本	一	番	五	十	嵐	一	番	和	田	一	番	七	官	野	敏	一	番	九	島	野	茂	樹	二	番	鈴	木	市	敏	博				
三	番	流	山	源	次	郎	三	番	近	藤	好	五	番	渡	辺	昭	七	番	辻	田	実	九	番	辻	田	実	二	番	石	井	武	一	番	栗	原	一	番	鈴	木	村	源	真	次
二	番	林	豊	二	番	四	番	六	番	八	番	〇	番	二	番	藤	益	二	番	伊	賀	多	一	番	辻	井	謹	一	番	安	西	益	喜	三	番	田	村	源	治	郎			



二五番 安沢 順  
二七番 望月 照正  
一、欠席議員 二名  
二八番 田中 禄郎  
二九番 秋山 六三郎

出席説明員  
市長 本間 哲三 助役 畠山 博 伝  
市役 高木 哲三 秘書 太田 博  
人事課 小沢 正治 企画課 伊藤 幸太郎  
庶務課 小倉 澄男 財政課 長谷川 広治  
市民課 佐野 甲子 税務課 越路 良夫  
収納課 横溝 功郎 商工観光課 鈴木 力夫  
農産課 石井 憲 衛生課 牧野 喜一  
保健課 網島 憲 土木課 飯田 治一  
水道課 大嶋 重義 交通課 山口 治一  
建築課 池田 春雄 国体室 小宮 利夫  
市民センター館長 羽山 房雄 消防 星野 清之助  
福祉事務所長 齊藤 武男 教育委員 高木 正夫  
消防本部次長 岩田 実夫 学校教育委員 吉田 隆夫  
庶務課長 汐崎 政光 学校教育委員 小宮 義夫  
教育委員 川上 賢爾 社会教育課長 小宮 義夫  
体育課長 川上 賢爾



選舉管理委員會  
書記長

高山隆男

監查事務局長 榎本

繁

農業委員會  
事務局長

岩崎一郎

一、出席事務局職員

事務局長

高梨清一

事務局長補佐 高尾 豊

書記

兵藤恭一

書記 錦織 睦子

書記

渡辺弘

書記 川上 義雄

一、議事日程(第一号)

昭和四十六年九月十七日午前十時開議

日程第一 會議錄署名議員の指名

日程第二 会期の決定

認定第一号 昭和四十五年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十五年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十五年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十五年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

日程第三 認定第六号 昭和四十五年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十五年度館山市西部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

報告第四号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について

議案第六十八号 安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約の制定について

議案第六十九号 字の区域及び名称の変更について



議案第七十号 昭和四十六年度館山市一般会計補正予算（第三号）

議案第七十一号 昭和四十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）

議案第七十二号 昭和四十六年度館山市休養施設特別会計補正予算（第一号）

開 会 午前十時八分 開 議

○ 議長 （吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十七名、これより第三回市議会定例会を開会いたします。

議 案 の 配 布

○ 議長 （吉田勇治郎君） 議案を配付いたさせます。議案の配付漏れはございませんか。——なしと認めます。

議 長 の 報 告

○ 議長 （吉田勇治郎君） 本定例会の議案審議のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとりの出席報告がございましたので御了承願います。

なお、監査委員より五月乃至八月実施の監査の結果が報告されております。それぞれお手もとに配付の印刷書により御了承願いたいと思います。

会 議 録 署 名 議 員 の 指 名

○ 議長 （吉田勇治郎君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行ないます。五番議員近藤好雄君、二七番議員望月照正君以上両君を指名いたします。

会 期 の 決 定



○議長 (吉田勇治郎君) 日程第二、会期の決定を行ないます。

本定例会の会期につき議会運営協議会の意見は本九月十七日より九月三十日までの十四日間といふことであります。おはかりいたします。会期を十四日間と定めますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よつて会期は九月十七日から九月三十日までの十四日間と決定いたしました。

### 提案理由の説明

○議長 (吉田勇治郎君) この際、本定例会招集につき市長の議案趣旨説明とあいさつを求めます。

(市長本間 譲君登壇)

○市長 (本間 譲君) 提案理由の説明を申し上げます。本日、館山市第三回定例議会を招集し、付議いたします案件は認定関係七件、報告関係一件、一般議案関係二件、予算関係三件であります。

まず、認定関係につきましては、昭和四十五年度館山市一般会計ほか六特別会計にわたる歳入歳出決算について地方自治法の規定に基づき市議会の認定に付するものであります。

次に、報告関係といたしまして、安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出についてであります。これは本市が同改良区の借入金に対して損失補償をしている関係から、地方自治法の規定によりその経営状況を説明する書類を議会に提出し、適正なる事業の執行と効率的な運用を期せんとするものであります。

次に、一般議案関係といたしましては、安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部改正であります。組合で共同処理する事務の中に不燃物処理施設及び火葬場施設の設置、管理及び運営に関すること並びに消防事務、救急事務及び職員共同研修に関することを加える改正であります。



次に、字の区域及び名称の変更であります。館山市北条字北浜小松及び館山市下真倉字砂田の一部の土地を市開発公社が買収し、住宅団地造成のため土地の合筆及び新番地設定に際し、字を変更してもらいたい旨の依頼がありましたのでこれを変更しようとするものであります。

次に、一般会計ほか三特別会計の補正予算でありますが、まず一般会計についてそのおもなものを御説明申し上げますと、衛生費で正木及び西長田衛生処理場におけるごみ処理に使用するブルトーザー、ダンプカーの借上げ料として百二十六万三千円、水産業費として西岬及び富崎地区における沿岸漁業構造改善対策事業費の追加に伴い県補助金二百二十万五千円に市費四十二万九千円を加えて補助しようとするものであります。また当初予算に計上しました伊戸漁港物揚げ場護岸工事費百五十万円につきましては、四十七年度以降に実施した場合には県単事業から国庫補助事業になり大幅な国庫補助金の交付がある旨の県の指示もありましたので、これを変更して来年度以降に実施しようとするものであります。次に観光費といたしまして、千葉県から委託を受けたフラワールインの沿道にかかわる花卉植栽事業につきましては、さらに地元花卉組合に委託するため三百六十万円を計上いたしました。教育費といたしまして、館山小学校防音校舎にかかわる給排水及び換気工事事業費として六百七十一万四千円、図書館外構工事費として百五十九万九千円を計上しました。なお、有線テレビ放送センターの有線ケーブル使用料について三百万を更正しましたが、ケーブルの使用が遅れたために不要となつたものであります。

以上がおもなもので歳出合計一千四百七十五万五千円となりますが、これが財源としましては国庫補助金二百八十五万八千円、県補助金二百二十万五千円、諸収入五万円、使用料及び手数料百三十七万六千円、その他を一般財源をもつて充当しようとするものであります。

次に、国保会計につきましては、四十五年度療養給付費国庫支出金の還付金として六百十二万一千円、休養施設会計で建物修繕料として百五万六千円、まかない材料費として九十二万四千円の補正をお願いしようとするものであります。以上が補正予算関係であります。



このほかに、今会期中に追加議案として十月一日をもつて任期満了となります教育委員一名の選任の件及び豊房小学校舎改築工事請負契約の締結の件を予定しておりますので、上程の上はよろしくお願いいたします。以上、簡単な説明に終りますが、詳細につきましては関係課長をして説明させていただきますので、十分な御審議をたまわりますようお願い申し上げます。

### 議案の上程

○議長 (吉田勇治郎君) 本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

日程第三認定第一号乃至第七号、報告第四号及び議案第六十八号乃至第七十二号を一括して議題といたします。

### 議案の内容説明

○議長 (吉田勇治郎君) この際申し上げます。ただいま議題となりました各案件はこれより明読を省略し、直ちに内容説明を求めたいと思います。これに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。よつて決しました。

これより順次説明を求めます。まず、決算書は一号から七号までを一括して行ないます。

認定第一号 昭和四十五年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十五年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十五年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十五年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十五年度館山市ユースホテル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十五年度館山市西部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について



(市長本問 議君登壇)

○市長 (本問 議君) 四十五年度の決算について御説明を申し上げたいと存じます。

決算につきまして提案理由を御説明申し上げます。ただいま上程いたしました認定第一号から第七号昭和四十五年度館山市一般会計及び六特別会計歳入歳出決算につきましては御審議をわずらわすわけですが、本決算につきましては、地方自治法第二百三十三条第三項の規定により監査委員の意見を付して議会の承認を得ようとするものであります。顧みますと、昭和四十五年度は前年度同様稼働率高騰と道路整備、生活環境改善並びに教育施設の充実等の行政需要の激増傾向の著しい中でさらに苦しい財政事情に直面したわけですが、市勢発展のためこれら山積した諸問題に対しては、市財政の健全性を堅持しつつ住民負担の軽減と産業基盤の整備、充実、豊かな市民生活の実現、健康的で住みよい町づくり、教育文化の充実を目標とした住民福祉の増進に最善の努力をして参つたわけであります。

予算執行にあたりましては、前年度決算審査特別委員会より要望、御指摘のありました事項を十分配慮、検討いたしまして行政の執行につとめて参りました。特に年度当初施政方針に述べましたように観光、産業、教育を基盤としましての積極的な行政を推進したのであります。

観光面におきましては、四季型観光の移行を基本方針としてテレビ宣伝につとめるとともに、受け入れ体制の充実をはかり、観光拠点館山へと一歩前進するよう努力したわけであります。

産業面におきましては、酪農振興の一助といたすべく豊房育成牧場の完成をはかるとともに、草地造成等を実現し、農業部門においては農産物の適地適産を伸張し、所得の向上をはかるとともに農道及び用排水路の新設改良を実施したわけであります。水産部門については沿岸漁業振興養殖事業の促進及び漁港の整備につとめ、商工部門については商工会議所を通じて企業の健全な育成につとめるなど、各部門における近代化をはかるよう努力したわけであります。

教育面におきましては、PTA会費の全面撤廃を実施するとともに、教育費負担軽減に最大の努力をはかつたわけであり、また日本で初めての新しい教育方針を取り入れた北条小学校校舎の完成と、伝統を有する水泳のオールシー



マン化をめざす温水プールの完成など教育施設の整備、充実に努力したわけであります。

福祉面につきましては、高令者医療費給付制度の対象者を七十五歳に引き下げたのをはじめ、児童手当支給制度及び身体障害者の結婚奨励金支給制度を新しく取り上げたわけであります。また老人福祉センター、青年館、児童遊園の建設、低所得者向けの市住宅三十二戸の建設等福祉行政の充実につとめて参りました。

このほか、四カ年計画で市道の全面舗装化と西部簡易水道の着手をはじめ、市民生活上不可欠ともいへき生活環境施設の整備、市民の健康対策、消防施設の整備、生活保護をはじめとする各種福祉対策等諸事業を実施して参りました次第であります。

一方、財政の健全なる運営をはかるため財源の確保に最善の努力を傾注し、最少の経費で最大の効果をあげようととめて参りました。この間議會をはじめ各位の全面的な御協力、御援助をいただいたわけでありますが、この結果、幸いにも昭和四十五年度における当初の計画に従つておおむね予算通り執行することができ、一般会計ほか六特別会計で歳入合計二十五億四百五十三万円余、歳出合計二十四億七千六百九十八万八千余円、実質二千七百五万余円の繰り越し決算をとげることができましたことは、ひとえに市議會各位の御努力によるものと感謝いたします。

以上、概要につきまして御説明申し上げましたが、主要の成果につきましては、歳入歳出決算の事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書により御了承をいただきたいと存じます。なお、なにとぞ慎重なる御審議のほどをお願い申し上げます。

報告第四号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について

○ 機産課長 (石井 謙君) 報告第四号安房中央土地改良区の経営状況につきまして御報告申し上げます。

一一ページから御説明申し上げたいと思いますが、昭和四十五年度の事業報告でございますが、まず地区及び組合員の状況でございますが、この地区の受益総面積でございますが、一一、〇五二、三二四平方メートル約一、一〇五ヘクタールでございます。このうち館山市の受益面積が約八一二ヘクタールということでございます。次にお示ししてござい



ますのが丸山町、三芳村、館山市の前年度末、今年度末の受益者の関係が示してございますが、丸山町が若干組合員が増加しておりますのは、これは地域の関係で総代会の総会によりまして定款変更によりまして、地域が若干変更になつておりますが、館山市の場合は市街地の農地転用のために減じた数でございます。

次に一二ページ「昭和四十五年度をもつて、ダム工事関係は一部付帯構造物（橋梁二カ所）を残すのみで今秋より貯水開始の段階になり、いよいよ昭和四十六年度より水路工事を主体に実施する予定であり、その事業量は次のとおりである。イ、ダム工事関係橋梁一カ所、ロ、水路工事四、八〇〇メートル」ここにお示ししてございせんが、実質的に四十五年度の事業実績を申し上げますと、事業費にいたしまして一億九千三百四十万円、その内訳といたしましてため池内の整備、それから大幹線の延長一、一三三メートル、その他に測量、試験、営繕そいうようなものを実施してございます。

次に、本年度までの工事経過の概要及び次年度以降の見込み、イ、ダム工事、昭和三十三年度着工以来ダム工事関係は前述したように一部の附帯工事（橋梁二カ所）が残るばかりですべて工事が完了し、今秋より貯水待つのみである。ロ、水路工事、前項のダム工事工程と合わせ受益地の早期効果をもたすため、昭和四十四年度より幹線用水路に着手して昭和四十六年度施行分と合わせて六、四五〇メートルが完成する予定で、全用水路延長二七、七〇〇メートルで残り二一、二五〇を昭和四十八年度までに終了する計画である。ハ、平久里川湖ども堰工事、昭和四十二年度に着工以来昭和四十五年度をもつて湖ども堰工事を全部完了。

一四ページの第四の経理の状況を申し上げますが、借入金状況でございますが、まず借り入れ先でございますが、これは農林漁業金融公庫借り入れ年月日昭和四十六年三月三十一日、利率が六分五厘、三分五厘この二つになつております。借り入れ総額四千二百六十四万円、この安中用水と書いてございますが、安房中央ダムの関係につきまして三千八百六十八万円、六分五厘で借り入れております。国からの補助金がございしますので、補助金外融資ということで六分五厘でございます。なお、平久里川につきましては、県単事業でございますので、これは三分五厘融資ということでご



ざいます。償還期限は昭和七十年十二月、当年度償還額四百二十八万二千四百八十一円を見込んでございます。償還額の累計で八百七十三万五千六百五十八円、未償還額が二億二千五百六十五万九千三百四十二円あるわけでございますがこの中で山本、安布里の構造改善事業の借入金が千六百三十六万四千三百六十八円含まれておりますので、実質的にダムといまして二億九百二十九万四千九百七十四円ということが実質的のダムの未償還額でございます。

次に一ページ、この事業実施いたしました四十五年度の決算内容は、歳入一金八千七百三万二千二百七十六円、歳出一金八千五百三十万九千三百七十一円、歳入歳出差し引き残金百七十二万二千八百五円これは次年度に繰り越してございますが、以下歳入歳出につきまして款項別にございますが、細部内容につきましては説明種目並びに付記欄によつて御了承をたまわりたいと思います。

次に、昭和四十六年度の事業計画でございます。一六ページをお開きいただきしたいと思います。昭和四十六年度は幹線用水路工事を中心に計画いたしてございます。総事業費が二億七千万円これは受益者負担が百分の二十五でございますので六千七百五十万円ということでございますが、このうち農林公庫の八〇％融資を五千四百万円見込んでございます。工事内容といましては、幹線用水路四、八五七メートル、これは丸山町の東台地先というところから九重の滝の谷の堰までを四十六年度に計画してございます。それから周囲道路といまして五・五メートル、これは橋梁二カ所含んでございます。

次に、一七ページの四十六年度の安房中央土地改良区歳入歳出予算でございますが、歳入一金一億五百六十三万四千円、歳出同じく一億五百六十三万四千円、一八ページ以降につきましては、事項別明細書にございます説明種目あるいは付記欄によつて御了承をたまわりたいと思います。以上で終了です。

○議長（吉田勇治郎君） 議案第六十八号安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約の制定について説明を求めます。

議案第六十八号 安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約の制定について



○ 企画課長 (伊藤幸太郎君) 議案第六十八号につきまして御説明申し上げます。

今回の改正要点でございますが、従前の規約におきましては、第四条に共同処理する関係のものを記載するわけでございましてけれども、具体的な共同処理事項が今まで決定されませんでしたので、ある程度抽象的な表現にされて参つたわけでございます。しかしながら、今回共同処理事業が一応決定をいたしましたので、第四条にこの決定事項を明記したいということで第四条の改正をお願いするわけでございます。

まず、第四条の二号でございますが、従前は「市町村圏の振興整備に關する計画の實施に關すること。」ということで表現されておつたわけでございますが、今回「不燃物処理施設の設置、管理及び運営に關すること。」具体的に事業を明記したいということでございます。

それから、従前ございました三、四、五の三つの事項を加えたいということでございますが、まず第三号といまして「火葬場施設(靈柩車、祭壇を含む)の設置、管理及び運営に關すること。」それから第四号といまして「消防事務(消防団事務を除く)及び救急業務に關すること。」、第五号といまして「關係市町村の職員の共同研修に關すること。」以上の三つをさらに加えたいということでお願いするわけでございます。

以上、申し上げた各事業につきましては、目下細部的に検討中でございますして、近々最終的な方針が決定されるはずでございますので御了承いただきたいと思います。しかしながら、そのうちで第三号と第四号につきましては、これは昭和四十七年度から実施したいということでお願いするわけでございます。以上でございます。

議案第六十九号 字の区域及び名称の変更について

○ 庶務課長 (小倉澄男君) 議案第六十九号につきまして御説明申し上げます。その次の封筒が添付してございます。中に図面が二葉されておりますのでごらん願います。それでは御説明申し上げます。

館山市開発公社が北条海岸の増地先と青柳地先に住宅団地造成のために土地の買収を実施して参つたわけでございますが、その結果、新たに住宅団地を設定するために買収した土地の分筆、合筆及び新地番設定というような所定の作業



が必要でございますが、それに関連いたしまして字が違つたり、大字が違つたり、小字が違つたりするというようないわゆる飛び地がございますので、それを同一地番、同一字に設定いたしましてこれらをしていという事で、市長のほうに字の変更をお願いいたしたいという要望がございましたので、地方自治法第二百六十条第一項の規定によりまして議会の御承認を経ましたのちこれを決定したのち、都道府県知事に御報告申し上げたい。それによつて新たに住宅団地を設定して参りたいという事でございます。

それに参考といたしまして、添付した図面が二葉ございまして、小さいほうが北条海岸の増地先でございます。大きいほうが青柳のほうの上真倉地先の中に下真倉の土地があるという事でございます。赤線で塗つてある中をこの新たな大字、小字にしたいという事でございます。よろしくお願いいたします。

議案第七十号 昭和四十六年度館山市一般会計補正予算（第三号）

○ 財政課長（長谷川広治君） 一般会計補正予算の第三号について御説明を申し上げます。

今回の第三号補正予算におきましては歳入歳出予算だけでございます。第一条にお示をいたしてございますが、歳入歳出予算にそれぞれ千四百七十五万五千円を追加いたしまして、歳入歳出総額をそれぞれ二十一億一千五百七十万一千円というふうにいたしたい予定のものとでございます。

今回追加の額を財源別に申し上げますと、特定財源が千四十一万九千円ということになります。一般財源が四百三十三万六千円、比率で申しますと特定財源七〇・六、一般財源が二九・四という比率でございます。歳入歳出予算の補正の内容は次のページの予算補正という事でございますが、細かくは六ページからの事項別明細書によりそれぞれ主管課長より御説明を申し上げますのでよろしくお願いいたしたいと思ひます。

○ 衛生課長（牧野喜一君） 一〇ページ四款の衛生費一項の保健衛生費四目の環境衛生施設費でございます。これは火葬場及び祭壇事業につきましては、広域圏事務組合でこの十一月までに実施する予定でございましたが、準備の都合によりまして本年度末まで市のほうで実施するということになりましたので、その延びました期間相当分の額を



補正しようというものでございます。追加補正額につきましては合計四十一万五千元でございます。

補正の内容としましては九節の旅費、十一節の需要費、九節につきましては旅費の一万七千元、需用費につきましては三十八万一千円、このうちおもなものにつきましては火葬用の燃料費、これはA重油を使うのでございますが二十二万八千七百七十五円、その他細かいものは説明の印刷物によつて御了承たまわりたいと思います。それから十四節の使用料及び賃借料これは火葬場の土地借り上げ料でございます。これも延びました分についての地代でございます。

それから、二項の清掃費に参りまして、二目じんかい処理費でございますが、これは正木のごみ処理場の屋外に燃しました残灰及び燃えないごみを正木の処理場から西長田の埋め立て処理場に運搬、整理するための自動車の借り上げ、それから両処理場の整地のための借り上げ料これを合計いたしましたして百二十六万三千元を追加補正するわけでございます。よろしくお願いいたしたいと思います。

○ 福祉事務所長（斉藤武男君） 順序が飛びましたことをおわび申し上げます。

八ページ二款総務費一項総務管理費の中で二十三節償還金につきまして三十八万二千元の追加補正がお願いしてございます。内容につきましては、国庫負担金の償還金四万五千九百六十四円でございますが、生活保護費につきましては前年の実績に基づきまして予算が立てられ執行されるわけでございますが、これに合わせまして国庫負担金もこの予算に従つて交付されるわけでございますが、この事務の取り扱いといたしましては、四十四年度のを四十五年の六月に実際の実績報告を行なひまして、四十六年の三月にほぼ確定ということでございます。それで、四十六年の早い時点におきまして超過分の額については返還するというような事務処理になつておるわけでございますが、この四十四年度の生活保護費につきましては、保護延べ世帯数四千二百八十八世帯同じく保護実人員が七千八百二十五人、保護費が総額一億七百万五千五百四十五円でございます。この十分の八の国庫負担であるわけでございます。それが八千五百六十一万四千七百七十四円ということでございますが、実際に措置に対します交付確定額が八千五百五十六万八千百十円でございます。この超過分の四万五千九百六十四円を返還したいということでございます。



その次の同じく四十四年度の老人措置費の償還の二十一万三千二百二十九円の關係でございますが、これも同様な事務処置を行なうわけでございますが、四十四年度におきまして老人ホームに収容いたしました延べ人員といたしましては四百八名でございまして、このうちの十分の八が国庫負担であるわけでございますので、この負担金としまして六百九十二万七千三百三十二円というものが当初交付されたわけでございますが、実際におきます実人員の措置費につきましては六百七十万七千五百三十三円ということでございまして、この差額を同様返還したいというものでございます。

次の四十五年度の老人福祉県分の償還でございしますが、これは老人福祉法に基づきまして例年老人の健康審査を実施しておるわけでございます。これもやはり見積りにつきまして予算が立てられ執行されるわけでございますが、四十五年度におきましては六十五歳以上五千七百三十名に對しまして実際に検診いたしました者が千二十八名でございまして率にいたしますと一一％でございします。それで当初県負担金といたしまして二十八万八千五百六十八円あつたわけでございますが、実際におきます受診の交付確定額といたしましては十六万六千三百三十五円ということでございします。この差を県のほうに返還したいというものでございます。

次の一〇ページ三款民生費におきまして、生活保護費の中の十一節需用費、十二節役務費の關係の三万一千、二万七千円の關係でございしますが、これはいずれも自動車の燃料費及びその検査手数料、保険料といったものでございしますが現在福祉事務所におきましては、財政課所管のライトバンを福祉事務所専用というようになことでお借りしておるわけでございますが、当初予算の中でこの項目を計上いたしませんでしたので、今回追加補正をお願いするものでございます。

○ 収納課長 (横溝 功君) 八ページ二項徴税費二目賦課徴収費八節報償費四十六万四千円についてお願いするわけでございます。これは国定資産税、都市計画税及び県市民税に対する納期内納付報償金の追加でございします。八月末現在におきます実績額は二百十八万九千円となっております。ところが現計予算額が百七十三万四千円でございしますので不足が生じましたので今後の支出見込み額を合わせまして四十六万四千円をお願いするわけでございます。これによりまして納期内報償金としては二百十八万九千円の予算になるわけでございます。以上よろしくお願いいたします。



○ 選挙管理委員会書記長（高山隆男君） 九ページをお願いいたします。四項の選挙費三日参議院議員選挙費の中の更正並びに追加でございます。参議院議員選挙費におきまして八節から十八節まで説明欄に書きましたような種目の残が出る見込みでございますので、ここで事務機械を購入いたしたいと思ひます。十八節に庁用器具費としてこれはカードキヤビネットを二台購入させていただきたいと思ひます。これが財源のために執行残を十二万二千円更正をお願いいたします、同額で追加補正したいと思ひます。よろしくお願いいたします。

○ 庶務課長（小倉澄男君） 九ページの統計調査費御説明申し上げます。これは県の指定統計でございますが、物流統計調査に関するその委託費が内示が出ましたので五万一千円を計上いたしました。その内訳は報酬が四万三千円旅費五千元、需用費三千円でございます。これは全額県委託費として歳入のほうに歳入を予定しておる分でございます。

○ 農産課長（石井 諒君） 一一ページ六農林水産業費の農業費の三の農業振興費につきまして九十万九千円の追加補正をお願いしたい次第でございますが、この理由といたしましては、農林省は今年新しい計画といたしまして観光農林漁業の振興をはかるために自然休養村整備事業を農林事務次官通達によりまして実施しようとするものでございますが、これは全国で三十市町村を候補地として選定して本年度中にこの計画を樹立いたしました、次年度以降に事業の実施段階に入るわけでございますが、このうち千葉県下におきまして館山市一カ所が候補地になつたわけでございますが館山市の中の南館山地区といたしまして西岬、神戸、富崎地区が候補地に選定されたわけでございます。この九十万九千円につきましては、今申し上げましたような計画策定費といたしまして各節にお示ししてございますような内容でございますが、財源といたしましては国、県で七五五、候補地の市町村二五五というような形でございます。

新しい事業でございますので、一応目的を簡単に申し上げますが、この自然休養村は最近における農村、漁村及び農林、漁業の動向と自然に親しむレクリエーションの需要の増大傾向にかんがみまして、農村、漁村の自然環境の保全及び活用並びに地域の特性に即した観光農村漁業の計画的、組織的な推進、農林、漁業資源の多目的の利用及び農村、漁村の環境の整備を行なうことにより、農林、漁業従事者の就業機会の増大及び農林漁家経済の安定、向上を



はかるとともに、都市生活者等に対し農村、漁村の自然環境及び農林、漁業に親しみこれらに対する理解を深める機会をたかめつつ休養する場を提供することを目的とするというようなことでございますが、この内容等につきましては、これは県ともる話し合つてございますが、これからこの計画に入るための事業費でございますので、現段階におきましては事務局のプランでございますので一応発表はさしひかえさしていただきたいと思います。以上のような内容のもとに九十万九千円の追加をお願い申し上げたわけでございますが、特に申し上げますと、委託料の自然休養村計画委託料三十万円でございますが、これは専門的知識を有するコンサルタントこれに対する委託料等を考えております。ほかの種目につきましては、説明欄によつて御了承をたまわりたいと思います。以上です。

○ 水産課長（谷貝茂生君） 一ページから一二ページにかけて三項の水産業費でございますが、今回百三十八万の追加をお願いしまして水産業費総額三千六百七十四千円執行させていただきたいということでございます。

一二ページの水産業振興費の十一節需用費、十八節の備品購入費が年度末までの予算不足が見込まれますので追加をお願いするわけでございますが、特に需用費の中に印紙代というのがわずかでございますが四千円のとております。これは海運局の出張所が、一人の職員しかいない出張所が本年の四月から廃止になりました。市町村でこの事務を引き受けることになりましたので、市のほうでもつて事務をする場合の委託の内容といたしましては、船員手帳の交付、再発行あるいは書きかえ、それから船員の雇入れ等の事務あるいは手帳の変更、訂正こういった事務を扱うわけでございますが、手帳の場合は一件が百五十円で五十円が国のほうにおさまる。その他の事務につきましては一件二十円の手数料が入るわけでございます。その手数料の収入は歳入のほうにお願いしてございますが、印紙代は国におさめる費用の分と印紙でもつておさめますので三月までの見込みをここに計上させていただいたわけでございます。

十九節の負担金補助及び交付金のところでございますが、まず最初に沿岸漁業構造改善対策事業の補助金でございます。当初二百六万六千円の予算をお願いしてございましたが、今回県のほうから追加でもつて出してくださるという内示がございましたので、大体富崎の投石事業が六十一万ばかりの事業費、それから西岬が漁協の合併等がございまして



特に合併の奨励ということでこの事業の追加がございまして、洲の崎コンクリートの投石八十万、西川名に岩爆等の事業が約六十万、投石、魚床設置こういつた事業は六分の五、県、国の補助合わせて六分の五補助がございまして、その分を、岩爆の場合は半分額の補助がございまして、総額でもつて二百二十万五千円ばかりの県、国の補助がございまして、それに市費を加えて二百六十三万四千円で仕事をやらせていただきます。

それから、アワビの種苗放流事業でございますが、最初は千倉の水産試験所の分場から種苗を取り寄せまして放流する予定であげてございますが、今回この事業を一応県のほうで追加で認めていただくことになりましたので、エゾアワビの放流事業と、それからアワビをさらに本年予定した分だけの追加ということでございましたので合わせて十三万二千円の追加をお願いしようというものでございます。

それから、次の漁船巻き揚げ機の設置事業でございますが、当初予算で一応栄の浦と洲の崎の巻き揚げ機の補助を予定しておりましたが、今回見物でもこの巻き揚げ機をつくりたいということで十八万五千円ばかりかかりますが、はじめてのことでございますので、半額の補助をいたしたいということで九万二千円計上したわけであります。

次の漁港管理費の十五節の工事請負費でございますが、伊戸漁港の物揚げ場護岸工事請負費でございますが、当初県単工事でやる予定でございましたが、水産庁から県のほうに来年度以降にすれば局部改良工事として八〇万からの補助によつてやれるということで今年これを延期させていただきたいということで、より有利な補助にもつていきたいという事で減額してございます。

洲の崎漁港物揚げ場護岸工事でございますが、大体一五メートル予定しましたが、額がこれだけ減額してもやれそうだということでお願いしたわけでございます。

下原漁港のしゅんせつ工事は埋まつて浅くなりまして関係上、しゅんせつをどうしても待てないということで五万円追加してしゅんせつしてあげようということでございます。

○ 商工観光課長 (鈴木 力君) 七款の商工費の御説明を申し上げます。



三目の観光費でございますが、十三節委託料三百六十万円を今回追加をお願いするものでございますが、西岬の第一フラワーライン沿道に隣接いたします場所に観光用の花の植栽事業をいたすわけでございまして、南房地域花卉植栽事業委託金といたしまして三百六十万を計上したわけでございます。年度当初におきましてこの事業が県が事業主体となりまして、地元の西岬の花卉組合に対しまして事業を委託して行なうのだ。こういう計画でございましたが、その後県のほうから県と市との委託契約というにより実施しろ。こういうふうなお話しがございまして、さらに西岬の花卉組合との事業の委託契約によりまして行なう。こういうふうに県のほうから指示を受け取りました関係上、今回予算措置といたしまして年度当初に総事業費の三百六十万円の三分の一相当額の百二十万円を一応県に対する負担金として議決をお願いしたわけでございますが、このように県との委託契約の結果、一応総事業費の三百六十万円を県から委託金として歳入して、さらに市から西岬花卉組合に対しまして委託料として支出いたすために今回追加補正をいたしたわけでございます。

現在、委託契約の中の事業計画概要につきましては、洲の崎、西川名、伊戸の沿道に隣接いたします水田の裏作といたしまして約一町歩を四団地に分けまして花の団地造成をするということを計画しておるわけでございます。なお、花の種類といたしましては、春から春先の花といたしましてストックあるいはキンセンカ、マーガレット、ポピー、菜の花そういったものを選定しております。それから夏から秋先のものにつきましてはカンナをフラワーラインの路肩に植栽するというところでございまして、約三万球のカンナの球根を県のほうから受けましてこの夏に植栽したわけでございます。なおその他畑のないところにつきましては、伊戸から先平砂浦海岸につきまして試験的にフラワーボックスというものを設置しましてそこに花を植栽しましてやつたらどうかということで、その実用性を確かめるために四十六年度におきましてこれからフラワーボックスを試験的に設置し、そこに花の植栽をすることも考えております。そのほか街路樹の試験ということで大体十種類くらいの樹木を試験的に植栽いたしまして、適合樹木の選定を行なうということを計画しておるわけでございます。以上でございます。



○ 消防本部次長 (岩田 実君) 一二ページ第九款消防費について御説明申し上げます。

総額二十万一千円の補正をお願いする次第でございます。一、目常備消防費でございますが、十一節需用費といたしまして五万円の補正でございます。これは十月中に防火管理者の講習会を開催いたしまして、これに対する研修教材費として計上させていただいたものでございます。なお、この受講料といたしまして一人五百円程度いただく予定でありますので、これは市に雑収入として納入される予定でございます。

二、目の非常備消防費といたしまして十五万一千円でございますが、これは第五節災害補償費として五万二千円でございます。これは去る昨年の十二月に高井の火災に際しまして消防団員一名が負傷いたしましたので、これに対する療養、休業補償費でございます。なお、この費用につきましては、公務災害補償基金より参るように相なっております。

十一節の需用費八千円でございますが、これは西岬の十三、十四部の詰所香と波左間の詰所でございますが、この詰所にそれぞれ簡易水道が入っておりますので、まあ使用する日にちも少ないし、使用量も少ないわけでございまして、従来は料金としておさめないでよかつたわけでございますが、やはり正規におさめてもらいたいということでございまして、ここに計上させていただいた次第でございます。

十九節の負担金補助及び交付金九万一千円でございますが、本年の六月政令が改正されて消防団員の処遇改善の一たんといまして、公務災害の場合の補償が大幅にアップされたわけでございまして、その増額分に対する負担金の増と相なつたわけでございまして、その増額分九万一千円でございます。

三、目の消防施設費でございますが、これは財源補正でございます。当初計上させていただきましてした補助金が六十五万円でございますが、これが百五十八万円と交付決定をみましたために、ここに補正をお願いいたす次第でございます。

以上、簡単でございますが、説明を終わります。

○ 教育委員会庶務課長 (汐崎政光君) 十款教育費について御説明申し上げます。

一項教育総務費の放送センター費におきまして、十四節使用料及び賃借料におきまして三百万の減額補正をお願いい



たしました。これは当初予算におきまして有線放送が十一月開通を一応予定いたしましたして、ケーブル使用料といったしまして十一月から三月までの五カ月分を計上したわけでございますが、放送開始が都合によりまして早くて三月というところになりましたので、この際減額させていただきたい。こういったものでございます。

それから、二項の小学校費の教育振興費におきまして、十八節備品購入費におきまして五万円の追加計上をいたしました。これは四十六年度の僻地学校体育指定交付要綱に基づきまして、畑小にこのたび体育器具購入補助金として五万円交付される旨の連絡が県からございましたので、体育用のマット、飛び箱こういったものを購入させていただきたい。こういったものでございます。

二十節の扶助費におきまして十八万一千円の追加計上をお願いいたしました。これは特殊学級への就学率を向上させることを目的として、今回国がこれらにたよります子供たちの父兄のうち、国が定めました基準に満たない所得の者に対して、市町村の支出する補助金の二分の一だけ交付する。こういった連絡が参っております。現在特殊学級に通っております子供が七十五名おりますが、このうち要保護、準要保護に二十三名該当しております。これを除きました五十二名が今回の対象でございますが、そのうち調査の結果二十七名がこれに該当いたします。補助されます額は給食費関係で四千四百六十六円、就学旅行が千二百円、それから学用品、通学用品こういったもので千七百二十五円。こういった計算でございます。

三目の学校建設費におきまして、十五節の工事請負費に六百七十一万四千円の追加計上をお願いしておりますが、館山小学校の防音校舎改築工事につきましては、去る八月の臨時市議会が本体工事と電気工事関係につきましては工事請負の契約の議決をいただいておりますが、今回は給排水関係と換気関係工事これをいたしますについての不足額をここに追加お願いしたわけでございます。

それから、十八節の備品購入におきまして十五万四千円追加計上いたしました。これも館山小学校防音改築工事に伴います現場管理用の備品として机とか、椅子とかそういったものを購入させていただきたい。この工事費と備品



購入費これらとも一応国庫補助金七五〇の対象となるものでございます。

それから、十九節の負担金補助及び交付金におきまして三十五万円の追加計上をお願いしてございます。これは北条小学校のプールへ水を引きますにあたりまして、房州水道より求められました負担金でございますが、水道の負担金は現在水道メーターの口径によつてその額がきめられておりますが、北条小の場合は七ミリの口径を有するものでございます。なお、この負担金の請求とともに水道会社のほうから十万円の寄付申し込みを一応ちようだいしております。

それから、三項の中学校費におきまして、二十節扶助費におきまして十三万三千円の追加計上をお願いしてございますが、これは小学校と同様特殊学級に通います子供たちのうち、その父兄の所得が国の基準に満たません子供についてのものでございます。中学校の場合には小学校におきます金額よりも多少金額が上りまして、給食費につきましては年額五千六百三十六円、修学旅行三千五百円、学用品、通学用品こういったものが三千五百十円、その他となつております。以上、よろしくお願いいたします。

○ 社会教育課長 (小宮義夫君) 五項の社会教育費の図書館費でございますけれども、ただいま新しい図書館が債務負担行為で北条小学校跡西側に工事中でございますので、おかげさまで十一月一ぱいでできあがるという予定になつております。したがって、現在まで仮住まいで仕事を進めております関係で七節の臨時事務職員賃金八万円、それから十一節の需用費六万九千円の減額をお願い申し上げます。

なお、十五節工事請負費でございますけれども、新しい図書館は六〇センチの土盛りで工事しております。その土どめ工事、それから階段をつくる工事、玄関前にコンクリート打ちをする工事、犬ばしり等々外構工事請負費としてそこでございます百五十九万九千円の追加補正をお願い申し上げます。以上でございます。

○ 財政課長 (長谷川広治君) 以上で簡単でございますが、歳出の説明を終らせていただきます。歳出総額は千四百七十五万五千円でございます。

続きまして六ページからの歳入について御説明を申し上げます。今回、歳入に補正をいたします八款の使用料及び手



数料から十五款の諸収入に至ります総額千三十一万三千円はそれぞれ特定財源ということで先ほど御説明を申し上げました歳出にそれぞれ対応あるいは関連をいたします事業につきまして、所定の補助率あるいは内示額等を参考に計上をいたしてございます。したがって、一般財源としては新しくできました十七款の地方譲与税の四百四十四万二千円でございます。

使用料のおもな増額理由は、先ほど歳出のほうに申し上げましたとおり、火葬場の広域圏の移譲ということで年度途中までしか予算計上いたさなかつたわけでございます。本年度一ぱいやはり市営のものが続くということ、今年四月からの増額分を計算をいたしまして説明欄にございます二種目におきまして百三十七万六千円の収入増ということで計上をいたしてございます。

国庫支出金におきましては、おもなものは館山小学校防音改築関係の補助金百七十七万二千円、消防関係の施設の補助金の増額九十三万がおもなものでございます。

県支出金におきましては、大きなものは農林水産業費負担金におきます沿岸漁業構造改善対策事業補助金の二百二十万五千円、自然休養村の整備計画関係の補助金六十二万八千円、それから県の委託金におきます南房地域花卉植栽関係の三百六十万等がおもなものでございます。

寄付金におきまして、農林水産業費の寄付金が二十万六千円減額されておりますが、これは歳出のところに御説明申し上げました漁港関係の改築に伴います寄付金が減額になる予定でございます。教育費寄付金の十万円は、水道工事の負担に対する指定寄付のようなかつこうの寄付金でございます。

諸収入につきましては、雑入として五万、防火管理者の講習会の実費徴収のものとございます。

十七款の地方譲与税を款を新たに増設いたしました、これは御承知のとおり四十六年度から国の予算、法律等がきまりまして、市町村に対して交付をされるという予定のものとございます。目といたしましては、自動車重量譲与税という名前でございます。これは自動車の形式に応じましてそれぞれ所有者から税金を徴収することになったわけ



でございますが、それを市道の面積、長さ等に案分をいたしまして、それぞれ市町村に交付をされるというものでございます。大体本年度約五百万程度のものが収入が確保されるのではないかと予想でございますが、今回財源関係の不足額としてのもので四百四十四万二千円だけを計上いたしてございます。したがってあと六十万ぐらいは財源として保留ができるという予定をいたしております。

以上、簡単でございますが歳入の説明を終わらせていただきたいと思います。歳入も歳出と同じく千四百七十五万五千円でございます。以上で一般会計の予算説明を終わらせていただきます。

議案第七十一号 昭和四十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）

○保健課長（綱島憲治君） 議案第七十一号について御説明申し上げます。

今回、補正をいたそうとするものは、歳入歳出におきましてそれぞれ六百十二万一千円をお願いしようとするものでございます。二〇ページまず歳出でございますが、還付金といたしまして今回六百十二万一千円をお願いするわけでございます。これは昭和四十五年度におきまして国庫補助金、事務費並びに療養給付費の補助金でございますけれども、御案内のようにこの補助金は二月実績をもとにいたしまして一、二、三を算定いたしまして年度間の補助金を申請するものでございます。その結果、申請いたしました時点と精算をする時点では若干の数字のずれがございます。端的に申し上げますと、事務費におきまして四十五年度内に歳入されたものは一千五百一十一万三千円でございます。それが精算をいたしました結果千四百四十二万九千四百四十八円こういうことでございますので、その差し引き八万三千八百五十二円療養給付費におきまして一億七千九百二万、精算におきましては一億七千二百九十八万三千二百六十二円という数字でございます。この差額六百三万六千七百三十八円、両者合わせまして六百十二万一千円をこのたび予算化し、返納をするというものでございます。

その財源といたしましては、前年度の繰り越し金六百十二万一千円を充てたいと存じます。以上でございます。

議案第七十二号 昭和四十六年度館山市休養施設特別会計補正予算（第一号）



○ 商工観光課長 (鈴木 力君) 議案第七十二号休養施設特別会計補正予算につきまして御説明申し上げます。

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ四百四十四万七千円を追加いたしましたして、歳入歳出ともそれぞれ三千八百九十七万二千元とするものでございます。その内容につきましては二四ページを開きたいと思ひます。

まず歳出でございますが、経営費におきまして修繕料百十六千円のうち建物等修繕料百五十六千円でございますが鳩山荘の新館、旧館とも現在浄化槽の排水管の補修が必要であるということで今回その補修をいたしますための経営でございます。その他ふる場の窓わくの改修、それから全館の障子あるいはふすまの張りかえ等の必要がございます、そのための修繕料の経費でございます。それから備品等修繕料五万円につきましては、厨房用の備品の修繕料でございます。

なお、まかない材料費の業務用食事材料費でございますが、九十二万四千円を今回お願いするわけでございますが、去る五月二十日に国民宿舍の利用料の料金改定がございました。それに伴ひまして食事収入の増加分に見合います約五五万相当額を今回食事代材料費として追加計上したわけでございますが、その他本年度に入りまして若干の利用率の伸びもございまず関係上、一応九十二万四千円程度の不足をきたすという見込みでございますので追加を計上したわけでございます。

次に、十五節の工事請負費十万円につきましては、鳩山荘の下の海岸に下ります下水管の取り付け工事でございます。十八節の備品購入費の十九万三千円につきましては、業務用器具購入費でございます、厨房用の食器器具購入費でございます。それからなお被服購入費につきましては、当初予算で従業員の作業衣購入費として十一節の需用費に計上いたしましたわけでございますが、予算科目の適正というようにことで今回備品購入費としてあらためて計上いたしましたわけでございます。したがひまして、十一節の消耗品費十五万二千円については更正減額をいたしましたわけでございます。

それから、三款の予備費につきましては、事業収入の増加見込みによりまして今後人件費等の増加も見込まれます予定で一応予備費に追加補正をいたしましたわけでございます。



次に、歳入でございますが、事業収入につきましては利用料の条例改正もございまして、五月二十日から改定いたしました関係上、収入の増加が見込まれます関係上、一応宿泊収入におきましては二百七十六万七千円、食事収入におきましては百六十八万円の増額を見込みまして、ここに合計四百四十四万七千円を今回追加いたしましたわけでございます。以上でございます。

延 会  
午前十一時五十分 延 会

○議長 (吉田勇治郎君) 以上で各案件の説明は終わりました。本日の会議はこれにて延会いたします。次会は十八十九の両日を議案審査のため休会とし、九月二十日午前十時開会といたします。その議事は通告による一般質問を行います。

○ 本日の会議に付した事件

- 一、会議録署名議員の指名
- 一、会期の決定
- 一、認定第一号乃至認定第七号、報告第四号、議案第六十八号乃至議案第七十二号



